

じゃくすい
若水資料について

平成13年9月前田家より、前田若水の俳句短冊をはじめとした46点の資料と、767冊の蔵書を、高遠町図書館へ寄贈していただきました。

図書は、既に「若水文庫」として装備、登録を済ませ、貸し出しや閲覧など、活用をはじめています。

今回、俳句短冊や手紙類、「層雲」の添削原稿などを「若水資料」として目録にまとめました。

前田若水（条蔵）は、明治34年（1901）河南村上山田（現伊那市高遠町上山田）に生まれました。

青森中学（旧制）・長野高等女学校・伊那高等女学校・木曾中学などに奉職、この間、昭和25年妻の八千代が死去。以後一人で家庭と仕事、そして退職後は村会議員など公職に尽くしました。

昭和43年（1968）67歳で亡くなりました。

俳句との出会いは、大正15年青森にて「新俳句研究」を買い求め、「面白い」と思ったことからはじまりました。

「層雲」主幹荻原井泉水とは、勤めていた女学校へ招き、講演会を催すなど浅からぬ付き合いでした。

資料の中には、井泉水からの手紙が3点あります。

昭和14年、種田山頭火が伊那路を北上し、伊那高遠女学校の若水を訪ねてきました。若水は山頭火を、美篤の井月の墓に案内するなど、懇切にもてなしました。山頭火の「旅日記」には「山国のよろしさ、ほんに山国のよろしさに触れる」とあります。

資料には、山頭火の俳句短冊が2点含まれています。

若水の句集「仙丈」、二行詩集「霧」・「流浪の詩人井月の人と作品」の3点は、郷土資料目録「63」「64」「331」に収蔵されています。

『朝夕の寒いことだけ書いた葉書一枚 若水』

平成20年4月

伊那市立高遠町図書館